

市長杯大会の参加資格切り替え(Aクラス→Cクラス)について 現状大会の問題点と切り替え後の効果について

1 予算減少による運営の困難化

協賛金による運営が3年先、5年先では
チーム数の減少や、選手(子供)の少子化による減少
景気後退による協賛店の減少により困難化することが予想される
支出を抑え収入を増やす実行可能な素案のひとつとして
クラスの変更を行い参加チーム数を増やすことを解決策とする
現状の50チーム参加から80チームへの拡大を目指す
(試合時間、日程、グラウンドは増加できないため現状のまま)

効果 30万円の収入増加
30試合増加するが試合時間が1時間30分から1時間となり日程は増加しない

2 グラウンドの有料化による支出の増加

市長杯でのグラウンド使用10日～15日
ナイター使用を併せると15万円の使用料が予想される
本年度は市長杯について無料化されたが次年度以降は白紙となっている
6年生の大会とバッティングしないため、チーム事情を勘案する必要がなく日程調整が不要
グラウンド使用日数を少なく抑え、無用に日程を長期化させない

効果 グラウンド使用料の支出抑制、大会の長期化を回避する
30試合増加するが試合時間が1時間30分から1時間となりグラウンド使用日数は増加しない

3 他支部大会の都合による日程調整の困難化

10月～11月の他支部大会、上部団体の開催状況から
試合時間の調整や日程の調整を余儀なくされる場合が多く
試合終了時間が遅くなり(空きや手待ちが多いため)
運営スタッフ、審判員(2面では40名以上)の拘束時間が増加する
時間変更などでナイターの使用が無いよう、4年生以下の大会にする
ナイター(1面1時間3000円)

効果 他支部大会の時間を避けナイターを使用することが無くなり支出抑制と
スタッフの拘束時間を短縮することができる

4 試合数のバランスの問題

現状は6年生の大会「春季・支部旗・市長杯・総体(主管)」4試合
5年生以下の大会「春季・秋季」2試合
4年生以下の大会「総体(主管)」1試合
4:2:1を3:2:2としバランスよく運営することにより
選手全学年に均等に試合出場機会を提供する
低学年の選手増加の取り組みの一環として市長杯大会を提供する

効果 低学年の父兄が観戦する機会が増え、少年野球の活動への理解と共感を深めることができる
選手の増加の一助となることが期待される

(追記)

5 他支部低学年チームの現状を把握

効果 他連盟他支部の低学年チームの現状(構成や戦略、錬度)を観察することができ、自チームの
低学年の育成と次年度以降の対戦相手の情報収集等の参考とすることができる

以上の問題点を解決するための結論として市長杯大会の参加資格を
4年生以下とするものである